

令和3年度事業報告

自 令和 3年 4月 1日
至 令和 4年 3月31日

令和3年度事業報告

自 令和 3年 4月 1日

至 令和 4年 3月31日

I 事業の状況

1 概況

令和3年度は、あづま総合運動公園、福島空港公園及び逢瀬公園・福島県総合緑化センターについては第4期の指定管理者として、福島市民家園については第3期の指定管理者として、それぞれ3年目の管理運営に当たり、引き続き、利用者に快適かつ安全な施設を提供するため、定期的な巡回や点検など、施設の適切な維持管理や緑化の推進に取り組んだ。

しかしながら、前年度に引き続き、本年度も年度当初から新型コロナウイルスの感染拡大により公園の運営管理において、多大な影響を受けたところである。

東京五輪については、あづま球場において7月21日、22日はソフトボール競技、7月28日には野球競技が無観客で行われたが、オリンピック組織委員会や県など関係機関に積極的に協力し、指定管理者として適切に対応した。また、オリンピック・パラリンピックレガシーとして、球場内にメモリアルコーナーを設置した。なお、7月28日には、福島市に新型コロナウイルス感染症集中対策が出され、さらに8月26日には、福島県まん延防止等重点措置が適用され、9月23日まで続いたこと、令和4年1月27日から3月6日までの期間、まん延防止等重点措置が再び適用されたことから、体育館において利用人数の制限などの措置を行った。

事業の実施に当たっては、感染防止対策の徹底などガイドラインに沿った事業内容の見直しを行うとともに、コロナ禍における利用者ニーズを踏まえ、公園での健康づくりのための各種事業を展開した。

スポーツの普及指導については、あづま総合運動公園において、新型コロナ感染拡大の影響により、あづま荒川クロスカントリー大会、あづまの郷ウォーク大会等を中止としたが、子どもを対象とした水泳や球技などの各種スポーツ教室、一般を対象とした公園健康づくり教室、テニス大会等を十分な感染防止対策に取り組んだ上で開催した。また、体育館では平日昼間の利用促進を目的とした平日割サービス、トレーニング室では継続利用を促す月会員サービス等に取り組むとともに、庭球場では前年度に続き利用者ニーズを踏まえ、夏の涼しい時間帯での利用を提供する「夏季週末早朝営業」、さらには園路を活用した週末夜間のランニング等の利用を推進する「公園ナイトラン」を開催した。

レクリエーションの普及指導については、あづま総合運動公園において、計画していた「春の感謝デー」、「あづまT e s h i — g o t 市場」等の不特定多数を対象としたイベント等はすべて中止とした。また、サイクルスポーツ広場では、夏季に熱中症対策としてミスト装置を設置し利用サービスの向上を図った。

逢瀬公園・福島県総合緑化センターでは、地域関係団体との連携により開催していた「逢

瀬公園さくらまつり」や「キャベツ餅 MUSIC LIVE」等を中止したものの、「逢瀬公園秋の感謝祭」を感染防止対策を講じた上で実施した。また、体験会や教室などについても参加募集人数は減らしたが、実施回数は例年の2倍で昨年度より多く開催した。

福島空港公園では、「空港公園まつり」や「福島空港公園 handmademarket ソライチ」などのイベントは中止としたものの、「第15回福島空港公園杯グラウンドゴルフ大会」、「第15回福島空港公園杯少年フットサル大会」、「ノルディックウォーキングで健康になろう」など、スポーツ大会、健康づくり事業は感染防止対策を講じた上で実施した。また、個人参加型のイベントや各種体験会を開催したほか、子ども向け環境学習「みどりの楽校」、公園の魅力を活かした「観桜会」や「紅葉狩り」などに取り組んだ。

福島市民家園では、多くの年中行事、体験行事を中止したが、縁側の山野草展・即売会、秋のふれあい祭り等を感染防止対策を講じた上で開催した。

緑化の推進普及については、公園施設の利活用を図るための「あづま香りのバラ園まつり」、「サクラ、イチョウ等の四季のライトアップ」、「公園の落ち葉プール」等のイベントを開催した。

大規模イベントとしては、東京オリンピックの野球とソフトボール競技が開催されたことを始め、日本女子ソフトボール決勝トーナメント大会が開催された。

他に、あづま総合運動公園では、昨年度に引き続き水素燃料電池システムの保安管理・PR事業を受託し、施設の維持管理及びPR事業に取り組んでいる。

また、新型コロナウイルス感染防止対策及び便益施設の利便性向上を目的とし県より受託した、トイレの洋式化と手洗い用自動水栓への改修（都市公園トイレ環境改善業務）、及び利用者の多様なニーズへの対応を目的とし県が行った、とうほう・みんなのスタジアムへの照明設備整備業務については、すべて完了した。

* 以下、「あづま総合運動公園」を「あづま」、「福島空港公園」を「空港」、「逢瀬公園」を「逢瀬」、「福島県総合緑化センター」を「センター」、「福島市民家園」を「民家園」という。

II 事業概要

1 スポーツ・レクリエーションの普及指導及び体力の増進に関する事業【公益目的事業】

(1) スポーツの普及指導事業

1) スポーツ教室

新型コロナの影響により一部の教室は中止としたが、感染防止対策を行ったうえで、子どもを対象とした「小学生初心者水泳教室」や大人を対象とした「ワンポイント水泳教室」、「親子で楽しむからだあそび」、「季節を感じるウォーキング教室」等のスポーツ教室を開催し、県民の運動意欲の高揚に資するとともに、公園施設利用者の増加に努めた。

場 所	事 業 名	対 象	実施日	回 数	延べ参加者数
あづま	あづまガールズサッカー体験会	小学生～中学生の女子	4～2月	4回(2回中止) 全6回	8名
	小学生バドミントン体験会	小学生	4～2月	4回(2回中止) 全6回	29名
	ワンポイント水泳教室	プール利用者	5～6月 10～3月	35回(1回中止) 全36回	232名
	季節を楽しむウォーキング	一般	4～11月	全8回 (1回中止)	94名
	ランニング教室	一般	11/6	1回	中止
	親子で楽しむからだあそび	幼児・親	7月11日 3月6日	1回(1回中止) 全2回	13組
	小学生初心者水泳教室	小学生	5～11月	6日×4期 4期(1期中止)全5期	438名
	小学生陸上競技教室	小学生	4/7～4/28	4日×1期	127名
	小学生一輪車教室	小学生	6/20	1回	20名
	小学生体操教室	小学生	1/5、8、9、 12、15、16	6日×1期	97名
	公園健康づくり教室	一般	5～3月	4期(1期中止)全5期	167名
空 港	ノルディックウォーキングで健康になろう	一般	4月～3月	全24回	433名
	空港公園でヨガ	一般	4/10、6/12、 8/7、10/9	4回	69名
逢瀬、センター	ノルディックウォーキング体験教室	一般	4月～3月	全48回	676名

2) スポーツ大会

新型コロナの影響により一部の大会は中止となったが、チーム対抗テニス大会や小学生バレーボール大会を主催するとともにウォーキング大会、サッカーフェスティバルなどを感染防止対策を徹底して各種スポーツ団体と共催し、県民のスポーツ参加に寄与した。

場 所	事 業 名	対 象	実 施 日	延べ参加 選手数
あづま	第 36 回福島市スポーツ少年団 バレーボール競技大会	小学生	4/10、11	270 名
	第 10 回あづま総合運動公園チーム対抗 テニス大会（人工芝完成記念大会）	一般	5/3	144 名
	第 37 回全国小学生陸上競技交流大会 県北地区予選会（別会場）	小学生	6/5	302 名
	第 12 回あづま総合運動公園杯 県北マスターズテニス大会	一般	5/27	中止
	第 14 回あづまカップ パークゴルフ大会	一般	9/2	中止
	Me&You サッカーフェスティバル	小学生	11/13、14	402 名
	第 37 回全国小学生陸上競技交流大会 福島県選考会（別会場）	小学生	7/4	832 名
	陸上競技投てき・跳躍講習会	中学生～ 一般	—	中止
	第 17 回西方部親善木球大会 兼第 11 回あづま杯木球大会	一般	9/4	中止
	第 26 回ミニバスケットボール チビっ子フェスティバル	小学生 低学年	9/18、19	中止
	第 29 回あづまカップ 福島市ゲートボール交流大会	一般	10/27	40 名
	第 44 回総合運動公園庭球場オープン 記念ダブルステニス大会	小学生、中 学生、一般	10/24、31	158 名
	第 19 回あづまの郷ウォーク大会	一般	11/3	中止
	うつくしまふくしま第 44 回福島県 小学生バレーボール選手権大会	小学生	12/25、26	248 名

場 所	事 業 名	対 象	実施日	延べ参加 選手数
あづま	第 23 回あづま荒川 クロスカントリー大会	小学生～ 一般	12/12	中止
	第 21 回あづまジュニア体操競技大会	小・中学生	1/22、23	42 名
	あづまU-12 ガールズフットサル 2022	小学生 女子	3/5、6	中止
空 港	第 15 回福島空港公園杯 少年フットサル大会	小学生	10/30、31	300 名
	須賀川市大東地区球技大会（グラウンド・ゴルフの部）	一般	6/7	中止
	第 29 回福島県ターゲット・バードゴルフ大会	一般	9/16	中止
	第 15 回福島空港公園杯 グラウンド・ゴルフ大会	一般	10/29	310 名
	第 12 回福島空港公園杯 8 人制ジュニアサッカーフェスティバル	小学生	11/6、7 日程変更	1,000 名
	須賀川市市民体育祭 サッカー競技小学生大会	小学生	10/16、17	300 名
	第 10 回福島空港公園 秋季選抜 ジュニアシングルステニス大会	中学生 高校生	10/16、17	中止
逢 瀬、 センター	第 12 回ノルディック ウォーキング大会 in 郡山 2021	一般	10/25	107 名

3) ニュースポーツ普及指導事業

① 体験会の実施

春の感謝デー等の開催中止に伴い、予定していたグラウンドゴルフ、ディスクゴルフなどの体験会についても昨年度に引き続き中止とした。

② 器具貸出し

園内でのニュースポーツ活動、地域住民への器具貸出しを実施した。

(あづま 貸出件数 延べ 13 件)

4) 他団体連携によるスポーツ普及指導事業

スポーツ関係のNPO法人、各種競技団体などと協働でシニアスポーツ相談及びウォーキング大会を開催し、県民の健康増進に努めた。

場 所	事 業 名	内 容
あづま	スポーツ教室	公園カルチャー・公園健康づくり教室を協働で開催するとともに、春のノルディックウォーキング教室（5/12, 19, 26, 6/2 38名）、ヨガプラクティス（6/3, 10, 17, 7/1, 8, 15, 8/5, 12(中止)、19(中止) 63名）、ノルディックウォーキング教室（10/6, 13, 20, 27 29名）を開催した。
	シニアスポーツ相談室の運営	シニア世代の健康増進の一助として、スポーツ・レクリエーション活動に関する情報を継続提供。相談件数（102件）
	クライミングウォールの講習会開催補助及び体験会	県山岳連盟と連携しスポーツクライミングの普及に努めた。 講習会はオリンピック開催のため実施の計画なし。 体験会 10/17 62名
空 港	第14回空のみちウォーク 2021	地域の団体と協働で空港公園や空港周辺を歩くウォーク大会を中止とした。

5) 職員が有する能力及び資格を活用したスポーツ普及指導事業

公園資源や職員の持つ資格や技術を活用し、県民の健康づくりに寄与する事業を実施した。また、競技力向上に寄与した。

- ① 水泳指導（小学生初心者水泳教室、ワンポイント水泳教室、水連合宿）
- ② アーチェリー指導（合宿）
- ③ 陸上競技指導（部活動での指導）

6) とうスタをホームとするプロスポーツへの支援事業（あづま）

とうほう・みんなのスタジアムをホームとする福島ユナイテッドFCの応援コーナーを新たに設置するなど、当該チームの支援を図った。

7) その他のスポーツ普及指導事業

- ① イチョウ並木で「ナイトラン&ウォーク」

コロナ禍における公園での健康づくりや園内の照明施設の有効活用を目的に、参加者に自由に週末のナイトランを楽しんでもらうイベント「イチョウ並木でナイト

ラン&ウォーク」を実施した。(10/2～10/17の6日間(土日のみ) 148名)

② スポーツを楽しんで食事券をGETしよう

東京オリンピックの野球、ソフトボールの開催や新型コロナウイルスによるまん延防止等重点措置等の影響により、体育館等の利用休止が続いたことから、再開後の利用者数の減少が懸念された。このため、トレーニング室と室内プールの利用者を対象にポイントカードを作成し、貯まったポイントで体育館レストランで使用できる500円食事券と交換できるサービスを開催した。(期間：10/4～3/31(食事券の有効期限4/30)※(延べ391名に食事券配付(3/31現在))

(2) レクリエーションの普及指導事業

1) レクリエーション事業

新型コロナの影響により一部の事業は中止としたが、感染防止対策を徹底したうえで「公園の落ち葉プール」をはじめ各公園において体験型イベントを実施し公園のみどりの豊かさや楽しさを知っていただいた。また、県民の生涯学習の場として知識や技術を向上させるため、各種手づくり講座等を開催するとともに、一部の講座では仕事帰りに参加できるよう夜間の講座も開催した。

場 所	事 業 名	内 容
あづま、空港、逢瀬、センター、民家園	公園フォトコンテスト	公園で見つけたとっておきの風景や感動、驚きの様子を捉えた瞬間など、見た人が改めて公園の魅力に気づかされるような写真を募るフォトコンテストを展開。 第14回の入賞作品を展示(あづま、センター、空港、コラッセ福島)した。 第15回の作品を募集し、応募総数308点。
	公園PR動画コンテスト	あなたの動画で公園に行きたくなる！公園がもっと好きになる！をテーマに動画コンテストを開催。 第1回の入賞作品を公園公式YouTubeに公開した。 第2回の作品を募集し、応募総数6点。
あづま	みどりの教室	公園の特色を活かし、季節感のあるみどりに触れて学ぶプログラムで講座を開催。6回、参加者数119名。

場 所	事 業 名	内 容
あづま	ボランティアとの協働による公園づくり	公園ボランティアの人材育成を目的に、緑地管理の知識や技術指導を行った。また、企業団体の社会貢献活動の場となる機会を提供。みどりのボランティア（8回、参加者数65名）、みどりのサポーター（9回、参加者60名）、うつくしま園芸福祉の会（5回、参加者数35名）。
	公園の落ち葉プール	子供たちに身近な自然との触れ合いの場を提供するとともに、落ち葉の有効利用を目的とし、体育館入り口付近に落ち葉プールを設置。10/28～11/14日まで。利用者415名。
	あづまバラ愛好会の活動	ローズコンシェルジュとともに、バラ園を学ぶ場として活用し、技術指導などを行っている。班活動、自主活動を含め（34回）開催。参加者数（1,093名）。
	公園カルチャー教室、公園健康づくり教室	講師（講座）を募集し教室を年5期（31講座）開催。仕事帰りに参加できる夜の教室を複数回開催。参加者数（346名）。9月期は新型コロナ感染拡大により中止。
	あづまちびっこパーク	（新型コロナ感染拡大により中止）
	冬のキッズフェスタ	（新型コロナ感染拡大により中止）
	子どもみどりの教室	福島県もりの案内人を講師に水辺の調査とウォータースライダー体験を行った。8/7参加者数24名。冬の体験としてしめ縄のリース作りを行った。12/5参加者数5名。
空 港	とんぼ玉づくりを楽しむ	21世紀建設館を会場にトンボ玉を作った。参加人数20名
	手づくりピザを楽しむ	（新型コロナ感染拡大により中止）
	門松づくり体験	21世紀建設館を会場に、門松づくり体験を開催。1回、参加者数15名。

場 所	事 業 名	内 容
空 港	みどりの講座	バラやハーブの育て方や楽しみ方、季節の寄せ植えをテーマに各教室を開催。9回、参加者数242名。
	空港公園自然塾	木の枝クラフト、落葉プールなどを実施。全6回。参加者数108名。
	空港公園で農体験 ～野菜づくりを楽しむ～	みんなの野菜畑（植え付け、芋掘り）を開催。2回、参加者60名。
	空港公園の魅力再発見	公園の代表的な花木であるサクラを説明する観桜会と紅葉鑑賞会を開催。2回、参加者数31名。
逢 瀬、 センター	坂道ウォーキングによる健康増進 機会の発信	園内の起伏に富んだウォーキングコースの整備として、階段修繕、危険木の伐採や剪定、案内看板の改修を行った。また「コースマップ」をスタート地点や売店、休憩所に配置。
	みどりを感じる手づくり講座	地元の染織家を講師として草木染めや、クリスマスリースづくり、お正月飾り作りの体験教室を開催。15回、参加者186名。
	国蝶オオムラサキ・甲虫観察舎の開設	国蝶オオムラサキとカブトムシなどの昆虫の観察舎を設置し、子どもたちの利用促進に努めた。6月中旬～8月末、入場者数5,949名。
	公園は僕らの宝島“逢瀬の森で遊ぼう”	もりの案内人の会県中支部と連携し、木の枝クラフトづくりやナイトウォーク体験等を行った。全9回、参加者数99名。

2) 他団体連携によるレクリエーション普及指導事業

新型コロナの影響により多くの事業は中止となったが、各公園において地域の団体・ボランティアなどと協働で感染防止対策を講じたうえで、「逢瀬公園秋の感謝祭」「民家園ふれあい祭り」などのイベント、「ボランティアとの協働による公園づくり」、「各種体験会」などを開催し、地域の公園として関係団体と連携しながら、公園利用者数の増加に努めた

場 所	事 業 名	内 容
あづま	ボランティアとの協働による公園づくり（再掲）	公園ボランティアの人材育成を目的に、緑地管理の知識や技術指導を行った。また、企業団体の社会貢献活動の場となる機会を提供。みどりのボランティア（8回、参加者数 65 名）、みどりのサポーター（9回、参加者 60 名）、うつくしま園芸福祉の会（5回、参加者数 35 名）。
	あづまちびっこパーク（再掲）	（新型コロナ感染拡大により中止）
	ふくしまキッズ博	（新型コロナ感染拡大により中止）
	第 17 回西方部親善木球大会 兼第 11 回あづま杯木球大会 （再掲）	（新型コロナ感染拡大により中止）
	第 11 回あづま Teshi-got 市場	（新型コロナ感染拡大により中止）
	第 19 回あづまの郷ウォーク大会 （再掲）	（新型コロナ感染拡大により中止）
	親子で学ぼう！防災教室	（新型コロナ感染拡大により中止）

場 所	事 業 名	内 容
空 港	第 14 回空のみちウォーク 2021 (再掲)	地域の団体と協働で空港公園や空港周辺を歩くウォーク大会を開催予定であったがコロナのため中止。
	ノルディックウォーキングで健康になろう (再掲)	空港公園の3エリアを活用し、ノルディックウォーキング体験会を開催。全24回、参加者数433名。
	空港公園でヨガ (再掲)	緑のスポーツエリアの天然芝を活用したヨガの体験会を開催。4回、参加者数69人。
	第9回福島空港公園 handmademarket「ソライチ」	(新型コロナ感染拡大により中止)
	空港公園の森ウォーキング	地域の団体と共催で空港公園の広大な自然の中を歩く「空港公園の森のウォーキング」を開催。2回、参加者数71名
	YOSAKOI in 空港公園	(新型コロナ感染拡大により中止)
	十五夜茶会	(新型コロナ感染拡大により中止)
	空港公園で農体験～野菜づくりを楽しむ～ (再掲)	みんなの野菜畑(植え付け、芋ほり)を開催。2回、参加者数60人。
	空港公園子ども生け花教室	地域の子供たちを対象とした生け花教室を開催。3回、参加者数110人。
	パラスポーツ体験【新規】	パラリンピック競技のボッチャの体験会を開催した。参加者数50人
スポーツターフでボール遊び【新規】	ドイツ発祥のバルシューレ体験会を開催した。参加者数20名	

場 所	事 業 名	内 容
逢 瀬、 センター	キャベツ餅MUSIC LIVE 20221	(新型コロナ感染拡大により中止)
	公園は僕らの宝島“逢瀬の森で 遊ぼう” (再掲)	もりの案内人の会県中支部と連携し、木の枝 クラフトづくりやナイトウォーク体験等を行 った。全9回、参加者数99名。
	逢瀬公園秋の感謝祭	地元の逢瀬の風実行委員会の協力を得て、 コロナ禍での安全安心なお祭りを開催。 10/7、参加者数(1,328名)
民家園	縁側の山野草展・即売会	猪苗代山野草会による展示、福島植物園に よる即売会を行った。参加者数(1,086名)
	民家園ふれあい祭り	織りもの体験ほか、地元産新そばの販売、 竹とうろうづくり体験、フルーツ演奏会な ど市民団体と協働で開催。10/24、参加 者数(1,602名)
	伝統工芸等体験会	(新型コロナ感染拡大により中止)

3) 地域連携によるレクリエーション普及指導事業

新型コロナの影響により、「中学生ドリームアップ事業」「いきいき交流通学合宿の受け入れ」など多くの事業が中止となったが、感染防止対策を行い、地域の自治会や商工会等の団体と協働で「緑と花のあふれるまちづくり連携事業」等様々なイベントを開催し、地域の活性化に取り組んだ。

場 所	事 業 名	内 容
あづま	「中学ドリームアップ事業（職場体験活動）」の生徒受け入れ（市内各中学校）	（新型コロナ感染拡大により中止）
	緑と花のあふれるまちづくり連携事業	福島市商工会議所女性部と協力し花苗の栽培や、園内の花壇整備を行った。
	ボランティアとの協働による公園づくり（再掲）	公園ボランティアの人材育成を目的に、緑地管理の知識や技術指導を行った。また、企業団体の社会貢献活動の場となる機会を提供。みどりのボランティア（8回、参加者数65名）、みどりのサポーター（9回、参加者60名）、うつくしま園芸福祉の会（5回、参加者数35名）。
	あづまバラ愛好会の活動（再掲）	ローズコンシェルジュとともに、バラ園を学ぶ場として活用し、技術指導などを行っている。班活動、自主活動を含め（34回開催）。参加者数（1,093名）。
	いきいき交流通学合宿の受け入れ	（新型コロナ感染拡大のため中止）
	あづま絵本ぶんこの活用	幼児体育室脇に、絵本を自由に楽しむことのできるコーナーとして「あづま絵本ぶんこ」を設けた。また、絵本の管理、消毒液の設置等コロナ対策を適切に実施。
	空 港	空港公園まつり
花のまちづくり推進事業		市民が参加して栽培した花苗で地域環境の美化活動や地域おこしを行うことを目的に、4月から10月まで8回延117人が参加し、4,000ポットの花苗を地域に寄贈。

場 所	事 業 名	内 容
空 港	YOSAKOIin 空港公園（再掲）	（新型コロナ感染拡大のため中止）
	十五夜茶会（再掲）	（新型コロナ感染拡大のため中止）
逢 瀬、 センター	逢瀬公園さくらまつりの開催	（新型コロナ感染拡大により中止）
	周辺の小学校施設との連携強化【新規】	周辺の学校施設と連携して、視察の受け入れなど積極的に行った。参加者 100 名
民家園	民家園春まつり	周辺地域の協力のもと、つるし雛の展示と地元産農産物の販売、寒ざらしそばの出店等を行った。参加者数（1,182 名）
	古民家のお茶会	（新型コロナ感染拡大により中止）

4) サイクルスポーツ広場事業

職員のマスクや手袋の着用、消毒液の配置等、新型コロナ対策を実施したうえで、変わり種自転車や一輪車、バッテリーカーやそり（無料）の貸出を行った。

無料開放日を設け、家族団欒と子どもたちの健康増進の場の提供に努めた。

利用者数は、（延べ 242,543 名）、有料自転車等利用者数は(169,279 名)、バッテリーカー利用者数(23,799 名)であった。（あづま）

(3) 体力の増進事業

「公園で健康になろう」をテーマとして、子どもたちの遊び、運動の場の提供や、体育館トレーニング室、室内プール、陸上競技場トレーニング室の継続利用を促す月会員制を継続実施するとともに、利用者の多様なニーズに応えるため、新たに半年会員制度を設け、県民の健康づくりに取り組んだ。

場 所	事 業 名	内 容
あづま	軽運動室の無料開放	震災後、子どもたちの健全育成や体力増進を応援するため、小学生以下を対象に、本来有料施設である軽運動室を無料開放。なお、新型コロナ対策として人数制限や換気、消毒等を行った。利用者数（16,277名）。
	月会員・半年会員サービス事業	<p>① 体育館・陸上競技場トレーニング室 期間内において1日2時間まで使用可能な会員サービスに取り組み、トレーニング室の継続利用者の増加を図った。登録者数は、体育館トレーニング室では月会員延べ464名（一般237名、シルバー227名）、半年会員延べ54名（一般18名、シルバー36名）、陸上競技場トレーニング室では月会員延べ52名（一般40名、シルバー12名）、半年会員延べ3名（2名、シルバー1名）</p> <p>② 体育館室内プール 期間内において1日1回使用が可能な会員サービスに取り組み、室内プールの継続利用者の増加を図った。登録者数は、月会員延べ355名（一般147名、生徒3名、シルバー208名）、半年会員延べ19名（一般2名、シルバー17名）</p>
	庭球場ポイントサービス (平日限定)	庭球場の平日利用にポイントを付与し、一定のポイント取得に対し優待利用券を提供した。ポイントカード利用者数は、延べ55名（一般50名、生徒5名）

(4) その他の事業

1) 文化伝承事業

七夕、風鈴やハロウィン、クリスマスなど、季節にふさわしい室内展示や生活・文化を伝承する通年の行事を開催した。

場 所	事 業 名	内 容
あづま	季節感を創出する伝統文化の展示	季節に合わせて、七夕飾りと風鈴、お月見、ハロウィン、クリスマス飾り、団子さしかざり、おひなさまを体育館ホールに展示。
空 港	季節の伝統行事を楽しむ	七夕の短冊飾り、クリスマスツリー飾り（おひな様飾りは中止）を地域の子どもや園児等と制作し、エアフロントエリア休憩所に展示。7月、12月、2月（中止）、参加者数 55名
逢 瀬、センター	季節を感じる展示・飾り付け	七夕飾り、風鈴の設置、ハロウィン飾り、木の実細工展示、クリスマスツリー展示、団子さし飾りや、わんぱく広場へのイルミネーション設置など、四季の移り変わりを感じさせる飾り付けを行った。
民家園	年中行事・体験行事・実演行事・ボランティアガイド	年中行事の再現、体験行事等の円滑な運営に努めた。（ボランティアガイドについては新型コロナ感染拡大により中止）
	全国のだるま展示会・絵付け体験	「全国のだるま展示会」やオリジナルの「だるま絵付け体験」を実施した。
	お正月遊び体験	民家園を活用した昔ながらのお正月遊びを来園者に提供した。1/5～9（571名）

2 都市公園並びにスポーツ・レクリエーション及び歴史・文化・自然に関わる施設の管理運営事業【公益目的事業】

(1) 指定管理施設

1) 指定管理者としての施設の維持管理業務

施設名	面積 (㎡)	維持管理施設
あづま総合運動公園	88.2	総合体育館ほか有料施設 11施設
		巨石広場ほか無料施設 10施設 (クライミングウォールを含む。)
福島空港公園	52.1	庭球場ほか有料施設 4施設
		日本庭園ほか無料施設 9施設
逢瀬公園	17.3	桜の広場ほか無料施設 5施設
総合緑化センター	16.5	管理棟 1施設
		日本庭園ほか無料施設 17施設
福島市民家園	11.0	古民家 11施設
		展示館、管理棟、休憩棟 3施設

(2) 施設管理運営事業

1) 定期的な巡視

安全・安心な施設を提供するため、定期的な巡視を行い、異状があった場合は適切な対応に努めた。(あづま、空港、逢瀬、センター、民家園)

2) 点検作業

適正な施設の維持管理と点検作業の体系化を図るとともに、遊具の日常管理や保守点検に努めた。(あづま、空港、逢瀬、センター、民家園)

3) 修繕計画

有資格者の職員による施設点検を行い、更新などの修繕計画を作成した。併せて福島県などの施設管理者に予算確保のための資料として提出した。(あづま、空港、逢瀬、センター、民家園)

4) 災害等の対応

来園者の安全確保や不法行為の防止及び災害等の不測の事態に備えるために、消防訓練や救命講習などを実施した。

① 水上安全法(プール救命)講習会・・・(あづま、参加者13名)

② 消防訓練(消火・避難・通報)・・・(あづま、参加者45名)

③ 救命講習・消火訓練・・・(空港、参加者16名)

④ 文化財防火デー消防訓練への協力・参加・・・(民家園、参加者 6名)

5) 放射線量測定

園内各施設の放射線量を定期的に測定し、ホームページや掲示板への掲示により利用者に情報を提供した。(あづま、空港、逢瀬、センター、民家園)

6) 利用者へのサービス

公園内の季節の見どころに可動式ベンチを設置(あづま)

7) 公園野良ネコの現状把握と対策

園内に生息する野良ネコの一斉調査を引き続き実施し、生息地の把握や生息数の把握に努めた。また、公園の捨て猫問題に取り組む関係者から、捨て猫の情報や里親さがし状況について聞き取りを行っており、数匹の猫が里親に引き取られていることを確認している。また、新たな餌やりの場所など5箇所に啓発用看板を設置した。(あづま)

8) 古民家等の適切な管理

貴重な古民家及び民俗資料を次世代に引き継いでいくため、適切な管理に努めた。(民家園)

9) 受動喫煙防止の取組

子どもたちやタバコを吸わない人をタバコの煙から守るため、既存の喫煙場所を減らすとともに、喫煙所にフェンスを設置するなど受動喫煙の防止に取り組んだ。(あづま、空港、逢瀬・センター、民家園)

10) あづま総合運動公園燃料電池保安管理・PR業務(あづま)

水素燃料電池保安管理・PR事業を受託し、水素燃料電池システムによる発電施設の管理とPR事業を進めた。

- ① 水素利活用発信・・・水素燃料電池PRのためのパネル作成と館内放送及び遠隔監視業務
- ② 水素設備点検・・・高圧ガス保安法定点検業務
- ③ 各種点検及び燃料電池PR・・・日常点検、施設案
- ④ システム接続業務・・・インターフェイス導入工事

11) 園内案内看板の見直し改修

古くなった案内板などを現状にあった内容に改訂し、新たに看板を設置した。(逢瀬、センター)

12) 日本庭園の池の水質浄化と滝の流れ

水質の浄化を目的に池の清掃を徹底するとともに、滝の水をこまめに流すなど利用者へのサービス向上に努めた。(センター)

(3) 緑地管理事業

- ① 各植物の特性に配慮した植栽管理に努めた。
(あづま、空港、逢瀬、センター、民家園)
- ② 生育状況や利用に応じた適切な芝生管理に努めた。
(あづま、空港、逢瀬、センター)
- ③ 自然環境に配慮した植生管理、景観性に配慮した植栽管理に努めた。(あづま、空港、逢瀬、センター、民家園)
- ④ 貴重な植物の保護に取り組んだ。(あづま、逢瀬、センター)
- ⑤ 季節毎に楽しめる草花管理、自然美に配慮した下草管理、意匠性と自然美を合わせた植栽管理に努めた。(あづま、空港、逢瀬、センター)
- ⑥ 日本庭園において日本らしさ、郷土性、季節感の感じられる緑地管理に努めた。
(空港、逢瀬、センター)
- ⑦ 樹木の枯れ枝などを巡視で発見し剪定を迅速に行った。(あづま、空港、逢瀬、センター)
- ⑧ どうほう・みんなのスタジアムの芝グラウンドにおいてプロスポーツ利用に配慮した芝生補修を迅速に行った。(あづま)
- ⑨ 本館の外壁塗装工事によって本館前の花壇が無くなったことから、新たに花壇整備を行った。【新規】(センター)

(4) 有料施設管理事業

- ① 有料施設の適正な利用受付及び貸出業務を行うことにより、公平・公正な貸出に務めた。(あづま、空港、センター)
- ② 県が行う新型コロナウイルス感染症拡大防止対策(営業時間の短縮等)に協力した。なお、施設利用のキャンセルについては、原則利用料金の返還で対応した。

(5) 指定管理施設の利用者数

あづま総合運動公園では、広域的な外出制限がなされた中での健康づくりや屋外でのレクリエーションの利用が促進されたことなどに伴い、園内の散策等利用は増加(前年度比で有料公園施設以外の利用者数では約4%増(約1.7万人増))したものの、令和2年度と同様に新型コロナウイルス感染症の影響を受け、スポーツ大会や興行、イベント等の比較的大規模利用の多くが中止、規模縮小(選手の参加制限や観客の制限など)があったこと、オリンピック開催に伴う施設の利用制限があったことやオリンピックの競技が無観客での開催となったこと、さらには、例年になく多くの降雪などにより、有料公園施設の全体の利用者数は減少し(前年度比で有料公園施設では約4%減(体育館:約15%増(約2.2万人増)、球場:約44%増(約0.9万人増)、とうスタ:約45%減(約1.5万人減)、その他の有料施設:約12%減(約1.7万人減))、全体として、約1%の減(約9,000人減)となった。

福島空港公園では、「空港公園まつり」や「福島空港公園 handmademarket ソライチ」などのイベントが、新型コロナウイルス感染症の影響により中止となったものの、9月末以降、全国的に感染者数が減少し、エアフロントエリア及び野外活動エリアにおいては、幼稚園、小学校等の遠足、ウォーキングなどの健康づくり、家族単位等での散策・保養の利用が増加したほか、感染防止対策を行った各種スポーツ大会等も実施したことにより前年度比で約9.6%増（約3.8万人増）となった。

逢瀬公園・緑化センターでは、春の「さくらまつり」や秋の「キャベツ餅 MUSIC LIVE」等の大規模イベントの中止、各種教室・講座等の募集定員数の制限など、コロナ禍による影響があったこと、さらに、冬期間は降雪量が多かったことや低温の影響などから一般散策者が減少し、前年度比で約10%減（約2万人減）となった。

民家園では、令和2年度からの旧広瀬座口新設や、コロナ禍における気分転換、運動不足の解消など、屋外志向の高まりによる一般散策者の利用増はあったものの、多くのイベント、行事が中止となり、前年度比で約7%減（約3,400人減）となったが、過去2番目の来園者数となった。

指定管理施設全体では、前年度より約6,500人増の1,646,918人となった。

(単位：人)

公園名	H26	H27	H28	H29	H30	R元	R2	R3
あづま	1,772,697	1,839,769	1,750,177	1,984,697	1,786,897	1,670,180	963,555	954,520
空港	438,047	508,824	519,573	529,353	530,967	524,424	428,480	467,382
逢瀬、センター	180,757	183,637	169,762	163,448	153,633	182,717	196,853	176,871
福島市民家園	38,047	46,169	40,515	35,432	35,875	33,228	51,566	48,145
合計	2,429,548	2,578,399	2,480,027	2,712,930	2,507,372	2,410,549	1,640,454	1,646,918

※令和2、3年度の利用者数実績については、コロナ禍による特殊事情が影響しています。

3 都市公園等に関する情報の収集、広報、調査研究及び利用促進並びに地域づくりに関する事業【公益目的事業】

(1) 都市公園等の情報収集事業

- ① イベント等が中止になり、イベントと併せて行っていた公園利用者へのアンケート調査は実施しなかった。
- ② 公園管理運営に対する満足度を調査するためのアンケートを意見箱などで収集した。(あづま 249 件、空港 21 件、逢瀬・センター78 件、民家園 17 件)。
- ③ トレーニング室の機器更新に係るアンケートを実施した。(21 件)
- ④ イチョウ光のプロムナード、光の tree ページェント実施時にツイッターを使用

したアンケートを実施した。(84件)

- ⑤ 大会開催時等に利用団体等から施設や運営についての情報収集を行った。
(あづま)
- ⑥ 他の類似公園等の管理運営情報の収集を行った。(あづま)

(2) 都市公園等の広報事業

- ① オリンピックの開催、公園スタッフが伝えたい見どころなど、公式ユーチューブを活用した公園プロモーション活動に取り組んだ(あづま)
- ② オリンピック・パラリンピックレガシーを多くの来園者に伝えるため、球場内にメモリアルコーナーを設置した。(あづま)
- ③ マスメディアを活用した広報活動を積極的に展開した。
(あづま、空港、逢瀬、センター、民家園)
- ④ スポーツ団体、学校、各種団体等に対し施設利用誘致活動の推進に努めた。
(あづま、空港、逢瀬、センター、民家園)
- ⑤ 協会発行の広報誌配布による県民への情報提供を行い、利用促進に努めた。
(あづま、空港、逢瀬、センター、民家園)
- ⑥ 園内で見られる花を図鑑として作成し、これを花の時期に掲示することにより、みどりの普及・啓発に努めた。(あづま、逢瀬、センター、民家園)
- ⑦ 各施設の現況や大会、イベントの開催状況などの情報を充実させたホームページをほぼ毎日更新した。(あづま、空港、逢瀬、センター、民家園)
- ⑧ ホームページでの園内開花状況など随時情報を提供するとともに、公園の魅力が伝わる撮影スポットをSNSを利用して発信した。(あづま)
- ⑨ きめ細やかな公園の四季の発信として、ツイッターやインスタグラム等を活用したリアルタイムな情報の提供・交換や、混雑時の駐車場の空き状況の情報をきめ細やかに発信した。(あづま、空港、逢瀬、センター、民家園)
- ⑩ 電光掲示板やデジタルサイネージ(電子看板)を活用し、リアルタイムに情報を提供した。(あづま)
- ⑪ 植物学習の場を提供するため、園内の植物名板の充実を図った。
(あづま、逢瀬、センター、民家園)
- ⑫ 公園で開催される大会やイベント内容を園内掲示板へ掲示し、情報提供を行った。また、公園に対する意見・要望への回答を園内掲示板へ掲示した。(あづま、空港、逢瀬、センター、民家園)
- ⑬ 利用者からの要望に対する回答や公園の情報を発信する「公園情報コーナー」を休憩所に設置した。(逢瀬、センター)
- ⑭ 例年行っている公園及び隣接する河川沿いの桜の維持を目的とした新名所「逢瀬さくらの里」づくりは、コロナ感染予防対策によって自粛している。
(逢瀬、センター)

(3) 都市公園等の調査研究事業

全国公園協議会現地検討会、体育施設協会協議会等へ職員を参加させ、情報収集や情報交換を行った。

(4) 都市公園等の利用促進事業

1) 施設の特性を活かした事業の推進

- ① 公園での健康づくりをテーマとした各種事業等に取り組んだ。
 - ア コース案内看板の設置やマップ更新により、園内ウォーキングコース、ジョギングコースの充実に努めた。(あづま、空港、逢瀬、センター)
また、各ポイントの標高、コースの所要時間や見どころ、消費カロリー(おにぎり何個分)など新たな情報を加えたマップを新たに作成し、コロナ禍における「公園で健康になろう」の充実に努めた。(あづま)
 - イ イチョウ並木の照明(外灯)設備を活用した「イチョウ並木で公園ナイトラン&ウォーク」を実施した。(あづま)
- ② ボランティアの協力をいただきながら、公園案内、スポーツ指導、イベント補助、年中行事の伝承などを行った。(あづま、空港、逢瀬、センター、民家園)
- ③ みどりのボランティア、みどりのサポーター、あづまバラ愛好会、福島空港公園ボランティア、おうせボランティアについて、活動の場を提供しながら育成を図った。(あづま、空港、逢瀬、センター)
※あづまボランティアは、大会・イベントが中止となったことにより活動なしとなった。(あづま)
- ④ 次の有料施設を個人利用者に無料開放する「個人利用サービスデー」を実施した。(あづま、空港)
 - ア あづま総合運動公園(5/5、8/22、10/10、12/5、3/21 年5回) プール、体育館トレーニング室及び体育室、陸上競技場(トレーニング室含む)、庭球場、サイクルスポーツ広場。利用者数は24,610名。
 - イ 福島空港公園(毎月1回) ※お客様感謝デーとして実施
庭球場。利用者数は延べ473名。
- ⑤ 学校や幼稚園等の遠足・見学等を随時受け入れた。なお、雨天の際には休憩の場として、屋内施設を提供した。(あづま、空港、逢瀬、センター、民家園)
- ⑥ 軽運動室を引き続き無料開放した。また、あづま絵本ぶんこを運営した。(あづま)
- ⑦ 庭球場において、利用者ニーズを踏まえ、夏の涼しい時間帯での利用を提供する「夏季週末早朝営業」に取り組んだ。5月から8月の土日、朝6時から利用できるもので、8日間で463名の利用があった。(あづま)
- ⑧ 芝グラウンドのプロスポーツ利用に対応するため、3月～11月末まで使用できるよう、とうスタの芝生の養生管理に努めた。(あづま)
- ⑨ NPO法人のスポーツクラブを支援し、協働でカルチャー教室や健康づくり教室の開催、シニアスポーツ相談室、スポーツ教室共催等の運営を行った。(あづま)
- ⑩ ヤマユリ群生地 の保全を図るとともに、アジサイ園、シャクナゲ園、バラ園の植物園としての適切な管理に努めた。(あづま)

- ⑪ バラの愛好者が集い、公園内のバラ園を活用して栽培技術などを学ぶ「あづまバラ愛好会」の活動を支援した。(あづま)
- ⑫ 公園の特色を活かしたイベントを開催することで、公園の四季を身近に感じていただくとともに、各種植物園（円形花壇、香りのバラ園、ヤマユリ園、アジサイ園）の魅力を発信した。(あづま)
- ⑬ サクラやイチョウ、ケヤキなどの公園資源を活用したライトアップを開催し、公園の魅力を発信した。(あづま、逢瀬、センター)
- ⑭ 福島空港公園フットサルコートの特典サービス（年間）（空港）
フットサルコートにおいて、10時間利用で1時間分無料の回数券を発行した。
- ⑮ 日本らしさと四季の演出、公園の新たな魅力の再発見を目的に、日本庭園マツの雪吊りを実施した。(空港)
- ⑯ 利用者からの健康増進のための要望に応え、卓球台を設置し、貸し出し（有料）を行った。(空港)
- ⑰ 条例で休館日となっている第3日曜日も開館し、公園利用者の利便性向上を図った。(センター)
- ⑱ ウォーキングを楽しむ利用者への更なる情報提供の強化として、逢瀬公園坂道健康ウォーキングマップを西駐車場に配置した。(逢瀬、センター)
- ⑲ 新たなランニングコースの設定
園内利用におけるランニング愛好家の増加を踏まえ、新たにランニングコース整備を行った。(逢瀬、センター)
- ⑳ 公園利用者の利便性の向上と地域連携を目的に開店した「おうせ茶屋」の運営に協力し、同施設は、郷土料理「キャベツ餅」の販売や地域食材を活用した飲食サービスの他、公園や周辺地域の観光情報の提供等にも取り組んだ。(センター)
- ㉑ 植物名板や解説板の増設を行うとともに、公園の冬の風物詩として、事務所前日本庭園のマツに雪吊りを実施し、施設の魅力アップを行った。(逢瀬、センター)
- ㉒ 寄贈されたものを活用して「だるま展示会」を開催し、民家園の利用促進を図った。(民家園)
- ㉓ 体育館トレーニング室、室内プール、陸上競技場トレーニング室の利用に応じたポイントを付与し、あづま総合体育館2階レストランの食事券500円分を獲得できる、「スポーツを楽しんで食事券をゲットしよう！」を開催し、当該施設の閑散期である冬季間の利用促進に努めた。(あづま)
- ㉔ 公園の新たな魅力を創り出し、公園利用者の利便性向上を目指す事業として、無料休憩所に飲食店の新規出店を募集、決定した。(民家園)

(5) 都市公園等の地域づくり事業

福島市商工会議所女性部と協力して花苗の栽培や園内の花壇整備を行う「緑と花のあふれるまちづくり連携事業」を再開する等、地域の団体との協働による様々なイベントを開催するとともに、ボランティアの受入れや育成を通し、地域の活性化や地域づくりを担う人材等の育成に取り組んだ。

場 所	事 業 名
あづま	「中学ドリームアップ事業（職場体験活動）」の生徒受け入れ（市内各中学校）（再掲）（新型コロナにより中止）
	地域密着型プロスポーツへの支援事業
	ボランティアとの協働による公園づくり（再掲）
	あづまボランティアの活動（新型コロナにより中止）
	あづまバラ愛好会の活動（再掲）
	緑と花のあふれるまちづくり連携事業（再掲）
	いきいき交流通学合宿の受け入れ（再掲）（新型コロナにより中止）
	あづまの郷ウォーク大会（再掲）（新型コロナ感染拡大により中止）
	荒川ミュージアムへの参画
空 港	第14回空のみちウォーク 2021（再掲）（新型コロナにより中止）
	空港公園まつり（再掲）（新型コロナにより中止）
	YOSAKOI in 空港公園（再掲）（新型コロナにより中止）
	十五夜茶会（再掲）（新型コロナにより中止）
	空港公園ボランティア活動
逢 瀬、 センター	地域の花いっぱい運動への花苗の栽培提供
	「安積アルプス出逢いプロジェクト」地域づくりへの取り組み（新型コロナにより中止）
	逢瀬さくらの里づくりへの取り組み（新型コロナにより中止）

4 緑化に関する普及指導、情報の収集及び調査研究に関する事業【公益目的事業】

(1) 緑化推進の普及指導及び情報収集事業

1) 公園資源を活用した緑化推進事業

① 公園資源を活用した「あづま香りのバラ園まつり」は、コロナウイルス感染症拡大防止のため、講演会や体験教室を行わず規模を縮小して開催した。

更に、公園の四季を彩るサクラ、イチョウ等のライトアップは継続して開催した。また、「公園の落ち葉プール」で使用した落ち葉を堆肥用として無料配布するとともに、香りのバラ園まつりに花苗の無料配布を実施し、緑化の推進に努めた。

ライトアップ事業では、秋期「イチョウ光のプロムナード」では竹灯籠、冬期「光のTREE ページェント」では動物のオブジェや光のトンネルを新たに追加するなど魅力アップに努めた。

場 所	事 業 名	実施日	参加者数
あづま	サクラ光のファンタジー	4/1～4/11	1,791名
	あづまバラ愛好会の活動(再掲)	4/3～2/18	1,093名
	みどりのボランティアの活動	6/5～3/4	65名
	みどりのサポーターの活動	6/10～12/6	60名
	あづま「香りのバラ園まつり」	6/5,6	12,000名
	あづま香りのバラ園まつり花苗配布	6/5,6	300名
	あづまちびっこパーク(再掲)	9/26	中止
	イチョウ光のプロムナード	10/22～11/8	13,298名
	光のTREE ページェント	12/10～1/10	9,536名
	子どもみどりの教室(再掲)	8/7, 12/5	29名
	園内掲示板への花だより情報の掲載	年間	—
空 港	空港公園の森ウォーキング(再掲)	6/19, 12/12	71名
	花のまちづくり推進事業(再掲)	4/8, 22, 28, 6/10 8/19, 9/9, 16, 10/14	117名
	空港公園で農体験～野菜づくりを楽しむ～(再掲)	5/16, 10/24	60名
	みどりのカーテン設置	5月～10月	—
	空港公園の魅力再発見(再掲)	4/11, 11/21	31名
逢 瀬、 センター	みどりに親しんでもらうための展示と工夫	通年	—
	みどりの日記念花苗無料配布	5/4	250名

場 所	事 業 名	実施日	参加者数
逢 瀬、 センター	きのこを通して森を学ぶ親と子の環境学習 事業	7/25、10/2	37名
民家園	みどりのカーテン設置	5/19～9/25	—
	縁側の山野草展（再掲）	6/5、6	1,086名
	植物見頃情報板及び花図鑑の設置	通年	—

② 緑化に関する知識の向上を目的に、家庭園芸の基礎を学ぶ各種教室や自然とふれあう体験教室を開催し、緑化の普及に努めた。なお、あづまの「みどりの総合講座」は、コロナウィルス感染症予防の観点から、当初5月からの開催予定を変更し、9月から開始した。

場 所	事 業 名	実施日	参加者数
あづま	みどりの教室（再掲）	5/24、6/24、7/5、10/30、11/17、2/25	119名
空 港	空港公園自然塾（再掲）	5/22、7/17、8/25、11/20、12/11、1/15	108名
	空港公園子ども生け花教室	5/9、7/4、10/17	110名
	樹木剪定専門技術研修	5/15、16、10/23、24	46名
	空港公園みどりの楽校	10/27	25名
	みどりの講座（再掲）	5/21、6/18、7/23、8/6、9/17、10/15、 11/26、12/10	242名
逢 瀬、 センター	スローライフを楽しむハーブ講座	4/13、6/15、7/4、7/5、8/22、9/15、 11/17	57名
	実践で学ぶ庭木の剪定講座	4/23、5/22	23名
	公園は僕らの宝“逢瀬の森で遊ぼう”（再掲）	4/18（新型コロナにより中止）、 4/29、5/9、8/1、8/7、10/17、1/22、 3/13	99名
	暮らしを彩るみどりと花の講座	6/6、6/29、7/14、10/6、11/7、11/27、 12/11、2/5	106名
	笑顔広がるにこにこバラ講座	5/28、5/29、6/25、10/27、11/5、 11/25	68名
	きのこを通して森を学ぶ親と子の環境学習事業（再掲）	7/25、10/2	37名

2) 職員が有する能力及び資格を活用した緑の普及指導事業

みどりの専門分野の知識・能力を活用したガーデニング教室、園芸教室等の教室や講座を開催し、みどりの普及啓発に努めた。

場 所	事 業 名	内 容
あづま	みどりの教室（再掲）	公園の特色を活かし、季節感のあるみどりに触れて学ぶプログラムで講座を開催。6回、参加者数 119 名。
空 港	みどりの講座（再掲）	家庭での庭づくりやガーデニングの基礎知識を公園から伝えることを目的に講座を開催。9回、参加者数 242 名。
逢 瀬、 センター	芝生の葉アートを楽しもう	公園事業と河内小学校 1，2 年生の学校授業の連携により芝生に触れる体験を行った。6/1 参加者 12 名。
	暮らしを彩るみどりと花の講座（再掲）	全 6 講座のうち 1 講座は、流行の多肉植物の栽培と寄せ植えについて初心者向けの内容を加え、職員が持つ技術提供を行った。参加者数 106 名。

3) その他の事業

① 「みどりの相談所」等の常設

昨年まで受託していたグリーンアドバイス事業の廃止に伴い、「みどりの相談所」等をあづま総合運動公園と空港公園に常設して、一般県民及び市町村、団体から庭木や草花の病害虫の診断や防除指導等、みどりに関する疑問や質問等の相談を有資格者が受け対応した。

・緑地の設計	8 件
・樹種選定・特性	2 件
・栽培・増殖	2 3 9 件
・育成管理	1 2 9 件
・樹勢診断・治療処方	1, 9 7 3 件
・病害虫	5 3 件
・その他	2 7 6 件

合 計 2, 6 8 0 件

〔うち、相談室内アドバイス	2 8 8 件
出張アドバイス	2, 3 9 2 件

② 「みどりの相談室」の設置

逢瀬公園・緑化センターでは、引き続き「みどりの相談室」を設置し、58人からの相談に対応した。

4) 情報収集事業

みどりに関する季刊誌や県外の公園情報誌等で情報収集を行った。

(2) 緑化推進の調査研究事業

1) リサイクル事業

- ① 剪定枝や松くい虫被害木はチップパーにより減容化し、堆肥製造装置により堆肥化するとともに、花壇の土壌改良材として利用した。(あづま)
- ② 落葉樹を主とした落ち葉は分別収集し、来年度の花壇用堆肥として再利用するため積み置き保管した。(あづま、空港、逢瀬、センター)
- ③ 剪定枝はチップパーにより減容化し、処分施設内に保管した。(空港、逢瀬、センター)

2) 生態系に配慮した事業

公園内の自然環境を踏まえて、生態系に配慮した緑地管理を実施した。(あづま、空港、逢瀬、センター)

3) 逢瀬公園、さくら守事業

さくらの広場のサクラの樹勢診断によって、剪定や土壌改良による樹勢回復を実施した。(逢瀬、センター)

4) 衰退木の樹勢回復

樹勢診断によって、衰退したシダレザクラに対して、根茎調査を行って土壌改良施肥による樹勢回復を実施した。(あづま)

5 その他、この法人の目的を達成するために必要な事業【収益事業】

(1) 都市公園の管理運営のうち、興行に類するものへの貸出に関する事業

1) 興行に類するものへの貸出状況

- ① J 3 ユナイテッドホームゲーム (4/11、5/26、6/6、9/5、9/12、10/3、10/10
合計7試合)
- ② 東京オリンピック (ソフトボール、野球競技)
あづま球場 5/6～9/29
とうほうみんなのスタジアム 6/7～8/13
庭球場 6/7～8/13
あづま総合体育館 7/17～7/29
補助陸上競技場 他 3/1～9/29の間
- ③ B2 福島ファイヤーボンズホームゲーム (4/17、18 2試合)

2) 興行に類するものへの貸出に伴うその他の収益事業

- ① 清掃業務委託 (あづま球場) 4/28～8/31
- ② 新型コロナウイルス感染症対策に係わる清掃業務委託 (あづま球場) 6/5～8/31

(2) 緑化の推進に関する樹木等調査、緑地造成及び緑地管理の受託事業

1) 緑化の推進に関する樹木等調査事業

- ① 街路樹、緑の文化財等の樹勢診断調査及び保全対策の設計、施工
令和3年度指定天然記念物定期診断業務（郡山市）

工期：R 3. 7. 15～R 4. 1. 31

- ② 樹木調査診断業務委託（その1）（双葉町）

工期：R 3. 5. 17～R 4. 2. 10

2) 緑地の造成及び緑地管理事業

- ① 福島県立医科大学の緑地管理

福島県立医科大学緑地保全管理業務（公立大学法人福島県立医科大学）

工期：R 3. 4. 1～R 4. 3. 31

(3) 利用者への利便性供与を目的とする物品販売等に関する事業

1) 売店等の設置（あづま、空港、センター）

あづまに1箇所のレストラン及び空港に2箇所の常設売店を設置し、利用者への利便性向上に努めた。

また、センターの売店「おうせ茶屋」は4月から11月にかけて営業し、利用者の利便性の向上と地域連携に努めた。

スポーツ大会、イベント開催時の臨時売店の設置

	臨時売店
あづま	延べ569店
空港	延べ2店
逢瀬・センター	延べ28店

2) 自動販売機の設置

	飲料水	飲食物
あづま	39台	7台
空港	7台	—
センター	2台	—

3) スポーツ用品の販売、運動靴の貸出し（あづま、空港）

卓球ボールやバドミントンのシャトル、テニスボール等のスポーツ用品の販売、運動靴の貸出しを行い、利用者への利便供与に努めた。

なお、新型コロナにより中止していた運動靴の貸出しについては、12月1日から再開した。

Ⅲ 役員等に関する事項

1 理事、監事の状況

役 職	期 首 氏 名	変更事由等	任期満了 による改選 (令和3年6月17日)	変更事由等 (令和4年 3月31日)	〈参考〉 補充選任 (令和4年4月1日)
			氏 名		氏 名
理 事	大 河 原 聡	重任	大 河 原 聡	辞任による	猪 股 慶 藏
理 事	石 森 春 男	重任	石 森 春 男		
理 事	渡 辺 良 夫	重任	渡 辺 良 夫		
理 事	新 谷 崇 一	任期満了	菅 家 礼 子		
理 事	滝 田 勝 彦	重任	滝 田 勝 彦		
理 事	須 藤 淳 一	重任	須 藤 淳 一		
理 事	諏 江 勇	重任	諏 江 勇	辞任による	服 部 雅 道
理 事	丹 治 俊 宏	重任	丹 治 俊 宏	辞任による	柳 田 範 久
理 事	森 崎 俊 紘	任期満了	壺 岐 ひろみ		
理 事	若 松 伸 司	重任	若 松 伸 司		
監 事	齋 藤 忠	任期満了	鈴 木 和 郎		
監 事	新 妻 勝 幸	重任	新 妻 勝 幸	辞任による	川 村 猪 佐 雄

2 評議員の状況

役 職	期 首 氏 名	変更事由等	任期満了 による改選 (令和3年6月17日)	変更事由等 (令和4年 3月31日)	〈参考〉 補充選任 (令和4年4月1日)
			氏 名		氏 名
評議員	追 分 富 子	重任	追 分 富 子		
評議員	石 本 仁	重任	石 本 仁	辞任による	鶴 見 宏 幸
評議員	小 川 宏	重任	小 川 宏		
評議員	遠 藤 徳 良	重任	遠 藤 徳 良	辞任による	森 雅 彦
評議員	佐 藤 隆 広	重任	佐 藤 隆 広		
評議員	齋 藤 卓 夫	重任	齋 藤 卓 夫		
評議員	七 宮 弘	任期満了	齋 藤 俊 藏		
評議員	本 多 勉	任期満了	新 谷 崇 一		
評議員	増 田 聡	重任	増 田 聡		
評議員	矢 吹 貢 一	重任	矢 吹 貢 一		

3 常勤役員の異動状況

(令和3年4月1日付け選任)

旧：常務理事 佐賀 勝 (令和3年3月31日辞任)

新：常務理事 渡辺 良夫 (令和3年4月1日新任)

(令和3年6月17日付け重任)

新：理事長 大河原 聡

新：副理事長 石森 春男

新：常務理事 渡辺 良夫

※参考 (令和4年4月1日付け選任)

旧：理事長 大河原 聡 (令和4年3月31日辞任)

新：理事長 猪股 慶藏 (令和4年4月1日新任)

4 常勤役員の兼職状況

兼 職 名	兼 職 者
(公社)福島県森林・林業・緑化協会理事	理事長 大河原 聡
(公財)福島県スポーツ振興基金理事	〃
福島県体育施設協会会長	〃

5 理事会及び評議員会の開催状況

開催月日	提 出 議 題
第1回理事会 令和3年4月1日 決議の省略による方法 同意理事 10名 同意監事 2名	議案第1号 常務理事の選任(案)について
第2回理事会 令和3年5月31日 杉妻会館 出席理事 8名 出席監事 1名	議案第1号 令和2年度事業報告及び附属明細書について 議案第2号 令和2年度決算に係る財務諸表及び附属明細書について 議案第3号 令和3年度第1回評議員会の招集(案)について
第1回評議員会 令和3年6月17日 福島グリーンパレス 出席評議員 8名 出席監事 1名	報告事項1 令和2年度事業報告及び附属明細書について 議案第1号 令和2年度決算に係る財務諸表及び附属明細書について 議案第2号 理事の選任(案)について 議案第3号 評議員の選任(案)について 議案第4号 監事の選任(案)について

開催月日	提出議題
第3回理事会 令和3年6月17日 決議の省略による方法 同意理事 10名 同意監事 2名	議案第1号 代表理事（理事長）の選任（案）について 議案第2号 副理事長の選任（案）について 議案第3号 常務理事の選任（案）について
第4回理事会 令和4年1月21日 クーラクーリアンテ サンパレス 出席理事 9名 出席監事 2名	報告事項第1号 令和3年度職務執行状況報告について 議案第1号 令和3年度補正予算（案）について 議案第2号 令和4年度事業計画（案）について 議案第3号 令和4年度収支予算（案）について 議案第4号 令和3年度第2回評議員会の招集（案）について
第2回評議員会 令和4年2月2日 決議の省略による方法 同意評議員 10名 同意監事 2名	報告事項第1号 令和3年度職務執行状況報告について 報告事項第2号 令和3年度補正予算について 報告事項第3号 令和4年度事業計画について 報告事項第4号 令和4年度収支予算について
第5回理事会 令和4年3月24日 決議の省略による方法 同意理事 10名 同意監事 2名	議案第1号 令和3年度第3回評議員会の開催（案）について 議案第2号 公益財団法人福島県都市公園・緑化協会有料公園施設等 利用料規則の一部改正（案）について
第3回評議員会 令和4年3月31日 決議の省略による方法 同意評議員 10名 同意監事 2名	議案第1号 評議員の補充選任（案）について 議案第2号 理事の補充選任（案）について 議案第3号 監事の補充選任（案）について

IV 特記事項

なし。

附属明細書について

令和3年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので附属明細書は作成しない。

令和4年3月

公益財団法人福島県都市公園・緑化協会